

■ 指定管理者制度導入施設 最終評価シート ■

1 基本情報

公の施設名	杜のホールはしもと、城山文化ホール
指定管理者名	公益財団法人 相模原市民文化財団
指定期間	平成31年4月1日～令和6年3月31日（5年間）
施設設置条例	相模原市立杜のホールはしもと条例、相模原市立城山文化ホール条例
施設の設置目的	杜のホールはしもと：市民が音楽、演劇等の芸術文化を鑑賞することができる機会及び市民が自ら芸術文化活動を実践することができる場を提供し、もって豊かな市民文化の創造に寄与するため 城山文化ホール：市民が行う様々な文化芸術活動及び交流活動を通じて、豊かな市民文化の振興に寄与するため、多目的な利用が可能な施設として設置する
施設概要	杜のホールはしもと ・所在地 相模原市緑区橋本3-28-1 ・敷地面積 8,626.18㎡ ・延床面積 9,601.10㎡（うちホール専有面積 6,638.14㎡） ・構造 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）地下2階地上9階建（内ホール部分：7～9階） ・主な施設 7階 ホール（定員535人：固定席531席、車椅子席4席）、セミナールーム1 8階 多目的室（移動席200席）、練習室1～3、音楽スタジオ、セミナールーム2 城山文化ホール ・所在地 相模原市緑区久保沢2-26-2 ・敷地面積 2,646.05㎡ ・延床面積 1,395.99㎡ ・構造 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）地上2階建て ・主な施設 多目的ホール（可動席296席、段床式ホール又は平土間形式として利用可能）、楽屋1・楽屋2、リハーサル室、ギャラリー、併設駐車場
施設所管課	文化振興課

2 管理実績

項目（単位）	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用者数合計（人）	147,816	42,709	78,317	111,645	123,345
利用料金合計（円）	68,726,962	30,967,962	68,856,531	79,855,444	78,751,913

3 成果指標の達成度

評価（5評価）	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	評価点 (20点満点)	評価点
	B	D	C	C	C		

指標1	
指標名（単位）	企画提案文化事業来場者の満足度（％）
指標式と指標の説明	指定管理者の企画提案で行う文化事業の来場者の満足度（「指定管理者が行う業務の詳細」に定める事業において回収された来場者アンケートのうち、最も高い満足度を回答した方の割合）を成果指標とする。

項目（単位）	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値（％）	76.0	77.0	78.0	79.0	80.0
実績値（％）	66.9	59.9	67.2	64.2	65.0
達成度（％）	88.0%	77.8%	86.2%	81.3%	81.3%

指標2	
指標名（単位）	杜のホールはしもと（ホール、多目的室）及び城山文化ホール（多目的ホール）の平均利用率（％）
指標式と指標の説明	施設が利用されることにより、市民の鑑賞機会や活動機会が増加し、市民の文化活動が推進されるため、（利用日数・利用可能日数）にて算出された対象施設の利用率の平均を成果指標とする。

項目（単位）	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値（％）	83.0	83.0	84.0	84.0	84.0
実績値（％）	83.6	58.3	74.1	81.1	79.5
達成度（％）	100.7%	70.2%	88.2%	96.5%	94.6%

4 事業の実施状況

評価 (5評価)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	評価点 (20点満点)	評価点 16
	A	S	A	A	A		

市が指定する事業

主な事業名	内容等	効果等
なし		

企画提案事業

主な事業名	内容等	効果等
各施設の規模及び地域性を生かし、伝統文化や優れた芸術作品を鑑賞する機会を提供する舞台芸術公演事業	15回以上	H31:22回実施 来場者13,073名 R2:15回実施 来場者1,858名 R3:20回実施 来場者4,558名 R4:25回実施 来場者5,728名 R5:24回実施 来場者9,714名
市民自らが芸術文化活動に参加し、相互に交流できる機会を提供するなどの市民の自主的な活動の支援に関する事業	年3回以上	H31:32回実施 来場者8,788名 R2:8回実施 来場者190名 R3:19回実施 来場者3,067名 R4:29回実施 来場者6,363名 R5:33回実施 来場者6,549名

自主事業

主な事業名	内容等	効果等
第19回さがみはら若手落語家選手権 本選会	ジャンル：伝統芸能 会場：杜のホールはしもと ホール 来場者数：212名	中止が決定された当初から、開催希望の声を多く受けており、優勝者を決めるべく開催した。令和初の優勝者は、選手権初の女性落語家となり、マスコミにも取り上げられるなど大いに盛り上がり、地域活性化に貢献できた。
自動販売機設置	・杜のホールはしもと…5台 ・城山文化ホール …2台	施設利用者の利便性の向上を図りつつ、自主事業としての利益を確保し、市民への文化芸術に還元している。

5 利用者の満足度

評価 (5評価)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	評価点 (20点満点)	評価点
	A	S	A	A	A		16

利用者満足度調査

調査手法	施設利用者に対するアンケートの実施
目標値の基準	5段階評価のうち、「とてもよい」、「よい」と回答した方の割合の合計

項目 (単位)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値 (%)	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
実績値 (%)	98.6	99.0	98.3	98.3	98.9
達成度 (%)	109.6%	110.0%	109.2%	109.2%	109.9%

利用者意見の把握に資するその他の取組

主な取組事項	取組内容
アンケートBOX	施設にアンケートBOXを設置し、利用者からの意見や要望等を随時受け付けている。受け付けた内容については会議で共有を図り、対応に努めている。
ホームページお問い合わせフォーム	施設のHPにお問い合わせフォームを設置し、利用者の方が質問や相談をしやすいような取組を行っている。

利用者意見に対する対応

主な意見	対応内容
バレエ用シートが古くなって使いづらい。 (杜のホールはしもと 練習室)	練習室2のバレエ用シートを更新した。
机に1200mmの短い物があると良い。(城山文化ホール ギャラリー)	市のリユース備品を譲り受け、1200mmの机を調達した。
ドアのストッパーが効かなくなった。	ドアストッパーを交換した。

6 施設の経営状況

評価 (5評価)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	評価点 (20点満点)	評価点 13
	S	A	S	C	C		

施設の収支概要

(千円)

項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
収入 (a)	221,497	222,125	242,411	232,605	232,426
指定管理料	140,605	142,510	136,865	131,339	131,338
利用料金収入	68,727	30,968	68,856	79,855	78,752
その他の収入	12,165	48,647	36,690	21,411	22,336
支出 (b)	216,178	203,098	225,060	238,182	235,068
人件費	70,092	68,718	72,568	73,867	75,545
本社管理経費	6,789	6,186	6,158	6,466	6,583
その他の支出	139,297	128,194	146,334	157,849	152,940
本体事業収支 [(a)-(b)] (c)	5,319	19,027	17,351	-5,578	-2,642
自主事業収入 (d)	1,463	1,330	859	1,149	1,271
自主事業支出 (e)	347	1,127	361	439	393
自主事業収支 [(d)-(e)] (f)	1,116	203	498	709	878
全体収支 [(c)+(f)]	6,435	19,230	17,849	-4,869	-1,764
備考					

7 管理業務の履行状況

検査項目	確認結果				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
管理業務	適正に実施	適正に実施	適正に実施	適正に実施	適正に実施
危機管理	適正に実施	適正に実施	適正に実施	適正に実施	適正に実施
人員配置・地元活用	適正に実施	適正に実施	適正に実施	適正に実施	適正に実施
現金管理	適正に実施	適正に実施	適正に実施	適正に実施	適正に実施
会計・経理	適正に実施	適正に実施	適正に実施	適正に実施	適正に実施
情報セキュリティ	適正に実施	適正に実施	適正に実施	適正に実施	適正に実施
情報公開・個人情報保護	適正に実施	適正に実施	適正に実施	適正に実施	適正に実施
市への報告事項・事前承認等	適正に実施	適正に実施	適正に実施	適正に実施	適正に実施
加点の有無	無	無	無	無	無
主な加点内容					

8 指定管理者の自己評価

今期指定管理期間（令和元年度～5年度）においては、各施設の設置目的を踏まえ、地域特性や各施設の規模・特徴を合わせた以下のようなアイデンティティに基づいた管理・運営を行ってまいりました。

杜のホールはしもと「創造」― 文化を創造する拠点 ―
城山文化ホール「集い」― 地域に根ざした文化活動の場 ―

今期指定管理期間は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行という当初、想定していなかった社会状況の変化により、施設の休止や利用制限、「新しい生活様式」のもと、大勢の人が集まることを避けることや、ホール内で声を出すことの禁止など、利用者・来場者にご不便をおかけする厳しい時期が続きましたが、関係者の協力もいただきながら、市から求められた企画提案事業の回数を全て達成することができました。

【文化事業】

杜のホールはしもとでは、「さがみはら若手落語家選手権」や「シリーズ杜の響き」等の鑑賞公演を継続的に開催するほか、アウトリーチ事業として橋本七夕まつりと連携による「インナーガーデンLIVE」や、「若手落語家選手権」の優勝者が地域を訪れる「出前落語」を実施し、文化を創造する拠点ホールとして、市民と共に地域文化を育む取組を進めました。

また、開館20周年であった令和3年には、平成13年のオープニング・コンサートを行った小曾根真(ジャズピアノ)、小山実稚恵(ピアノ)に再び出演いただくなど、ホールの歴史や地域と共に歩む当財団ならではの事業を実施しました。

さらに、令和5年に「シリーズ杜の響き」が第50回を迎えるにあたっては、通常年では実施が難しい「バッハ・コレギウム・ジャパン」の公演を過年度の利益を財源に「シリーズ杜の響き」の予算規模を拡大して実施しました。

城山文化ホールは、地域に根ざしたホールとして、市民ステージや夏休みの無料映画会などを実施するとともに、令和4年の城山文化ホール開館10周年においては、県民ホールと連携して「オペラ『ハンゼルとグレーテル』」を実施するなど、地域住民に高品質な文化芸術の鑑賞機会を提供しました。

さらに、上記のほか、公益法人として、前期までの指定管理期間で得られた利益を市民に還元すべきとの考えから、「特別事業等準備金」に積み立て、各施設の周年事業の一部をこの積立金を財源に、指定管理者事業とは別枠で、財団の独自事業として実施しました。

このように、当財団では、今期の指定管理期間のみならず、その長い歴史の中で、様々な形での事業を展開しており、それらを通じて、老若男女問わず多くの市民の皆様、ホールのファンになっていただけているものと考えています。

【施設管理】

コロナ禍において、相模原市との連携を密にしながら感染対策に取り組むとともに、利用者である市民や市民の文化団体等の皆様に対し、きめ細やかな連絡体制を整えることで、支障なく運営することができました。また、施設休止となった際の利用料金の還付手続きやチケットの払い戻しの手続きなども、大きな混乱を生じることなく対応いたしました。

施設利用の基盤となる舞台設備等の維持管理についても、これらを熟知した当財団ならではの迅速かつ適切な修繕を行うことで、機能維持や延命化を図ってまいりました。また、当財団として得られた過年度の利益を財源として、杜のホールはしもとでは、空調設備の修繕（5,410,000円）を行ったほか、城山文化ホールでは、施設の魅力を発信するためのポスター掲示板（570,000円）を新たに設置いたしました。

【総括】

今期の指定管理期間は、新型コロナウイルス感染症の流行により、社会経済に様々な影響を及ぼしましたが、そのような中でも、文化芸術が持つ多様な価値が、人々の生活にとって欠くことのできないものであることを、より一層実感いたしました。

当財団では、そうした厳しい環境下であっても、相模原市の公益財団としての使命を果たすべく、文化施設の指定管理に堅実に取り組み、市民の皆様にとって心が躍り感動に溢れる事業展開や、誰もが安全で安心して利用できる施設の維持管理ができたものと認識しています。

また、今後も歩みを止めることなく、当法人の設置目的である文化施設の管理運営をはじめとした様々な取組を通じて、相模原市の文化振興に尽力していく考えであります。

9 所管課意見

指定期間の平成31年度から令和5年度にかけては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う施設の利用休止や制限、急激な物価高騰など想定外の事態が続いたが、その都度、柔軟に対応いただき、利用者に対し、安全かつ円滑に施設をご利用いただける環境を提供いただいた。

事業面においても、制限を受けながらも感染症対策を講じ、コロナ禍にあっても、協定で定める規定の回数以上の事業が実施された。事業内容については、杜のホールはしもとでは、音響の良さを生かした杜の響きや落語家選手権などを継続的に実施し、城山文化ホールでは地域に密着した事業が展開され、市民が文化芸術に触れることができる機会を提供できている。

経営面については、ここ2か年は物価高騰の影響もあり、厳しい経営状況が続いているが、過去の利益を修繕やポスターケースの設置、事業の実施により還元いただくなどの貢献をいただいた。

施設の利用率については、感染症の影響で大きく落ち込んだ後、元の水準まで戻し切れていないので、令和6年度からの現指定期間において、利用者の生活スタイルの変更も踏まえつつ、施設の利用拡大に取り組んでいただきたい。

10 選考委員会意見

5年間を通して適正な施設運営が行われている。城山文化ホールでは、コロナ禍の練習場所の不足や工事休館で他館から流れてきた利用者の一部を取り込むことに成功し、コロナ前よりも利用率が上がっている。引き続き利用者の獲得と定着化を図っていただきたい。

事業については、各ホールの特性を生かした事業が展開されており、市民の満足度に繋がっている。今後は評価の低い成果指標達成のため、利用者へのアプローチ方法が重要である。公演の内容や客層の固定化が懸念されるので、新たな客層を獲得するための企画の検討が求められる。来場者は高齢者も多いので、高齢者が孫と一緒に参加できるような企画があれば、孫世代、親世代などへの客層の広がりも見込めるのではないか。時には敷居を下げて文化に馴染みのない人にアプローチをして、施設を知ってもらう取組を行うことも重要である。

総合評価（自動判定）

B

(65/100)

